

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

鹿児島県鹿児島市

2022年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

鹿児島市SDGs未来都市計画

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

鹿児島市SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

「第五次鹿児島市総合計画」における都市像と2030年のあるべき姿は共通しており、計画的・戦略的に取組を推進していくことで、SDGsの推進を図る。

<都市像>

「人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市・かごしま」

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）		2021年（目標値）		達成度（%）
1	宿泊観光客数 【8.9,11.4,17.17】	2016年 (2015年) 3,410 千人	2021年	2,161 千人	2021年	3,800 千人	-320%
2	外国人宿泊観光客数 【8.9,11.4,17.17】	2016年 (2015年) 195 千人	2021年	8 千人	2021年	300 千人	-178%
3	卸売業・小売業年間商品販売額 【9.2,17.17】	2016年 (2014年) 22,391 億円	2021年 (2016年)	26,050 億円	2021年	25,400 億円	122%
4	交通事故による死傷者数（10万人あたり） 【3.6,11.5,13.1,17.17】	2016年 662.9 人	2021年	280.5 人	2021年	500.0 人	235%
5	保育所等の待機児童数 【1.2,3.1,3.2,5.1,5.2,5.4,5.5,17.17】	2016年度 151 人	2021年度	82 人	2021年度	0 人	46%
6	本市への移住相談件数 【5.b,11.5,11.b,17.17】	2016年度 29 件/年	2021年度	279 件/年	2021年度	100 件/年	352%
7	住宅用太陽光発電システムの設置累計【7.2,7.a,12.8,17.17】	2016年度 10,913 件	2021年度	12,937 件	2021年度	25,000 件	14%
8	温室効果ガス排出量の削減率 【7.2,7.a,12.8,13.1,13.2,13.3,17.17】	—	2021年 (2019年)	2013年度比 24.5 %減	2021年度	2013年度比 12.0 %減	204%
9	市民一人あたりの施設緑地面積 【14.1,14.2,15.1,15.4,15.9,17.17】	2016年度 10.2 m ² /人	2021年度	10.9 m ² /人	2021年度	10.8 m ² /人	117%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・宿泊観光客数及び外国人宿泊観光客数については、2019年まで順調に推移してきたが、2021年においては、2020年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、移動の制限や旅行控えの動きが生じたことなどにより、数値が大きく減少するなど、非常に厳しい状況が続いた。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、観光を取り巻く状況に多大な影響が生じていることから、今後は、アフターコロナの中長期的な観光トレンド等を考慮して施策を推進する必要がある。
- ・保育所等の利用待機児童数については、減少（2020年：216人⇒2021年：82人）しているものの定員充足率の減少傾向が続いており、保育士不足等の影響がみられることから、保育士確保等の事業を着実に実施するとともに、第二期子ども・子育て支援事業計画に基づく既存施設の活用等による利用定員増などの受け皿の確保に努め、早期の待機児童解消を目指す。
- ・移住相談については、新型コロナウイルス感染症の影響等により地方移住に関心が高まる中、地方都市での新たな暮らしを希望する者に対し、オンライン相談のほか、IJU倶楽部や移住奨励金の実施に取り組み、目標を大きく上回っている。
- ・住宅用太陽光発電システムの設置については、固定価格買取制度の買取価格の低下などを背景に目標値を大きく下回っているが、同システム設置にあわせてリチウムイオン蓄電池も設置する者が増えるなど、市民の再生可能エネルギーに対する意識に変化がうかがえた。今後とも国等の動向に留意しつつ、太陽光発電の率先導入や導入支援を進めるほか、バイオガス施設の運営やゼロカーボン電力への切り替えなどにより再生可能エネルギーの利用促進を図っていく。
- ・「温室効果ガス排出量の削減率」については、2021年度の目標を達成したところではあるが、2050年のCO₂排出量実質ゼロに向けて、更なる削減が必要であり、今後も市民や事業者等と一体になって「ゼロカーボンシティかごしま」の実現に向けた取組を推進していく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	地域特性を生かした観光・交流の推進	宿泊観光客数	2016年(2015年) 3,410 千人	2020年 2,076 千人	2021年 2,161 千人		2021年 3,800 千人	-320%
2	中心市街地の活性化	中心市街地の歩行者通行量(30地点・土日)	2016年 161,137 人/日	2020年 123,529 人/日	2021年 123,820 人/日		2021年 171,000 人/日	-378%
3	地域産業の振興	卸売業・小売業年間商品販売額	2016年(2014年) 22,391 億円	2020年(2016年) 26,050 億円	2021年(2016年) 26,050 億円		2021年 25,400 億円	122%
4	総合的な危機管理・防災力の充実	自主防災組織のカバー率	2016年度 86.4 %	2020年度 94.0 %	2021年度 95.1 %		2021年度 90.0 %	242%
5	生活の安全性の向上	交通事故による死傷者数(10万人あたり)	2016年 662.9 人	2020年 330.0 人	2021年 280.5 人		2021年 500.0 人	235%
6	少子化対策・子育て支援の推進、地域福祉の推進	保育所等の待機児童数	2016年度 151 人	2020年度 216 人	2021年度 82 人		2021年 0 人	46%
7	地域社会を支える協働・連携の推進	市内のNPO法人数	2016年度 396 団体	2020年度 368 団体	2021年度 359 団体		2021年度 430 団体	-109%
8	低炭素社会・循環型社会の構築	温室効果ガス排出量の削減率	-	2020年度(2018年度) 2013年度比 21.7 %減	2021年度(2019年度) 2013年度比 24.5 %減		2021年度 2013年度比 12 %減	204%
9	うるおい空間の創出、清潔で美しいまちづくりの推進	市民一人あたりの施設緑地面積	2016年度 10.2 m ² /人	2020年 10.8 m ² /人	2021年 10.9 m ² /人		2021年 10.8 m ² /人	117%
10	市民活動を支える交通環境の充実	公共交通利用者数	2016年度(2014年度) 80,079 千人	2020年度(2019年度) 77,692 千人	2021年度(2020年度) 44,750 千人		2021年 現状水準を維持する 千人	56%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

・SDGsの理念を踏まえ、SDGsの推進に取り組む企業、その他団体等を「かごしまSDGs推進パートナー」として、募集・登録し、同パートナーの取組について、市ホームページで紹介。企業等の推進体制より具体的な取組を確認できるよう申出書を変更した。また、パートナーの取組内容を確認するため、毎年、実績を報告するよう制度を見直した。

募集HP (<https://www.city.kagoshima.lg.jp/kikakuzaisei/kikaku/seisaku-k/shise/shisaku/toshisesaku/sdgs-suishin-partner.html>)

取組紹介HP (<https://www.city.kagoshima.lg.jp/kikakuzaisei/kikaku/seisaku-k/shise/shisaku/toshisesaku/partner-ichiran.html>)

・このほか、同パートナー等を対象としたSDGsパートナーシップ推進会議を開催（令和3年11月15日開催、72企業等から101名参加）

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

・宿泊観光客数及び外国人宿泊観光客数については、2019年まで順調に推移してきたが、2021年においては、2020年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、移動の制限や旅行控えの動きが生じたことにより、数値が大きく減少するなど、非常に厳しい状況が続いた。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、観光を取り巻く状況に多大な影響が生じていることから、今後は、アフターコロナの中長期的な観光トレンド等を考慮して施策を推進する必要がある。【再掲】

・中心市街地の活性化については、再開発事業などによる多様な都市機能の充実に向けた取組は概ね順調に進んだものの、ソフト事業では新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施方法を見直したもや規模を縮小したもの、中止したものもあり、中心市街地の歩行者通行量は2020年度に引き続き、2021年度も目標を大きく下回った。新型コロナウイルス感染拡大による影響からの早期回復を図るための各種施策を講じてきているが、中心市街地を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあることから、引き続き中心市街地活性化協議会や民間事業者とも連携しながら中心市街地の活性化に取り組む。

・保育所等の利用待機児童数については、減少（2020年：216人⇒2021年：82人）しているものの定員充足率の減少傾向が続いており、保育士不足等の影響がみられることから、保育士確保等の事業を着実に実施するとともに、第二期子ども・子育て支援事業計画に基づく既存施設の活用等による利用定員増などの受け皿の確保に努め、早期の待機児童解消を目指す。【再掲】

・地域生活を支える協働・連携の推進については、市内のNPO法人数は減少しているものの、NPO法人やボランティア団体など市民活動団体への助成や市民活動団体の情報発信に取り組むほか、地域コミュニティ協議会の活動支援等を行っており、引き続き、地域主体のまちづくりを推進する。

・「温室効果ガス排出量の削減率」については、2021年度の目標を達成したところではあるが、2050年のCO2排出量実質ゼロに向けて、更なる削減が必要であり、今後も市民や事業者等と一体になって「ゼロカーボンシティかごしま」の実現に向けた取組を推進していく。【再掲】

・新型コロナウイルス感染症の影響により減少した公共交通（路線バス、市電及び桜島フェリー）の利用回復を図るため、事業者の行う広報活動等に対し支援するとともに、新たに広報ポスターを作成し、利用促進を図る。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・現在の指標は自治体が主体となる取組に関するものが多いが、SDGsは企業や市民を巻き込み大きな流れを作ることが重要であるため、プラットフォームや「SDGsパートナーシップ推進会議」を活用して、民間企業が取組を進められる事業を期待する。他自治体では、市民に取組を促すために、ポイント制を実施しているところもあるため、そういった自治体を参考にして検討することも必要だと思料する。

・指標がSDGs的ではなく、普遍的なまちづくりの指標と見受けられるため、鹿児島市の特徴を意識して、取組を進めることを期待する。

・具体的な事業展開と、三側面の好循環ができていないように見受けられるため、金融機関との関係性の可視化が必要だと思料する。

・「かごしまSDGs推進パートナー」の仕組みが、各事業の推進に直接、間接につながるようにすることが必要であり、その道筋が見えるとおお良いと思料する。